

(寄稿) 桜園寺内文庫収蔵資料から

『三綱行実』について

国際文化学部 助教授 伊藤 幸司

『三綱行実』天・地・人(全3冊)

TW / 150 / S65

版本(朝鮮版本) 36.0 cm × 22.0 cm

『三綱行実』は、朝鮮国第4代国王世宗(セジョ) 在位 1418~1450)の命によって、中国・朝鮮の書伝の中から、君臣・父子・夫婦の道について模範となるような行いをした忠臣・孝子・烈女の逸話を選んで編集したものである。啓蒙的色彩が非常に強く、人物伝の内容は分かり易いように文章と挿絵で構成されている。面白いのは、文章が漢文のみならずハングルでも表記されていることである。世宗は訓民正音(くんみんせいおん ハングルの古称)を制定した国王としても名高く、現在韓国で使用されている 10,000W(ウオ)札にも登場する。ハングルは、漢字を公用文字とする前近代朝鮮社会にあって、漢文が訓読できない庶民のために作られた造語である。つまり、『三綱行実』は漢文に精通する両班(ヤンパ)をはじめとする支配者階級のみならず、より広い階層をも視野に入れて編まれたことになる。14世紀末の建国以来、儒教を第一とした如何にも朝鮮国らしい書物だといえる。寺内文庫本は、世宗期に作られたオリジナルではなく、後世(おそらく朝鮮後期頃)に複製された版本(序文部分は写し)と思われる。全体的に痛みが激しいために随所で裏打ちが施されている。なお、現存する『三綱行実』の版本には数種類の系統が確認でき、それぞれレイアウトや図柄に若干の違いがある。

ところで、『三綱行実』は日本と朝鮮との交流史を語る上でも非常に重要な書物となっている。それは、「崔氏奮罵」(地の巻)の挿絵に前期倭寇の姿が描かれているからである。従来、倭寇を描いた絵としては「倭寇図巻」(東京大学史料編纂所架蔵)が著名であり、教科書等でも掲載されることが多い。しかし、そこで描かれている倭寇は主に16世紀の中国南岸地域で活動した後期倭寇の姿であり、14世紀に朝鮮や山東半島を蹂躪した前期倭寇とは全く異なるものである。ゆえに、少なくとも確実に前期倭寇をイメージして描かれている『三綱行実』の挿絵(それが実態を正確に写実しているか否かは別として...)は非常に貴重な図像といえる。



『三綱行実』人の巻より、倭寇の挿絵。



『三綱行実』天の巻、表紙。

なお、挿絵に連動する「崔氏奮罵」条では、1379年の晋州(チンジュ)で起こった次のような悲話記されている。夫の留守中に倭寇の襲撃にあった崔氏の女は、幼子や乳飲み子を抱きかかえて山中に逃げたところ、倭賊に捕まってしまった。30歳過ぎの器量の良い女性であった彼女は、倭賊に脅されたにもかかわらず貞操を守り通したが、自らは殺害され乳飲み子も死んでしまったという。この悲話は、『高麗史』巻121・列伝34・烈女・鄭満妻崔氏条や『太宗実録』巻25・13年2月丙辰条などでも裏付けできる歴史的事実であり、死後、彼女の家には旌門(せいもん)が立てられ高麗国王から賞賛された。『三綱行実』の挿絵では、木にしがみついた彼女に斬り掛かろうと刀を振りかざす倭人の姿が示されている。この挿絵を見た朝鮮国の人々は、倭寇(倭人)のことを非道の悪者として記憶したであろう事は想像に難くない。ただし、前期倭寇の構成員には対馬・吉岐・松浦地域の人々のみならず、朝鮮半島側の人々もいたというのが現在の日本史学界の通説となりつつあることも付言しておく。

(寄稿) 私の学生生活と図書館

社会福祉学部2年 伊藤 慶子

山口県立大学の図書館は、学生である私達にとって大変便利なところであると思う。例を出せばちょっと調べ物をしたい時、レポートを書くのに参考文献が必要な時、インターネットを使いたい時、勉強をしたい時。こういった時に気軽に行けるのが、図書館である。

私の場合1年生の頃から、授業の中で読書感想文の課題をほぼ毎週出されていた。そのため図書館へ行く機会が増えたように思う。何よりも私が図書館を利用する理由は、勉強の出来る環境が整っているからだ。

本学の図書館は、特別利用カードを借りれば、平日と土曜日には夜10時まで利用ができる。一般の図書館だと夜7時には閉まってしまうが、夜10時まで開いているのが非常に有り難いところだ。

試験が近づくと、私は毎日のように特別利用カードを借りに行き、そこで勉強している。最近ではカウンターの職員に、顔も名前も覚えられているのではないかと思うくらいだ。

図書館の1階には学習用の部屋が設けられ、2階には個人で利用できる机もあり、勉強しやすくなっている。私は、家では出来るだけ自分の好きな事をする自由な時間を過ごす、図書館では集中して勉強する、といった風に生活にメリハリをつけている。そういった考えを持つ人には、図書館は必要不可欠な場所になるであろう。

私は入学当時、特別利用の仕組みがよく分からなかった。友達に聞きながらも、理解するのに時間がかかったのを覚えている。図書館に、4月から入学してくる新入生が特別利用について理解しやすいような案内と説明を掲示するなどの工夫があると良いかもしれない。そうすれば、学生がもっと利用しやすくなると思う。

今、図書館が私自身の大きな生活の場になっている。これからも、試験前や資格を取得するための勉強をする時に、利用していこうと思う。卒業時には、ここが自分にとっての汗と涙の地となっているかもしれない。

疑問・質問にお答えします！！

附属図書館司書 清水 千裕

今から約2年半前、大学3年生の夏休み終了間際、私は課題の書評が書き上がらず、焦っていました。大学図書館のヘビーユーザーだった私は連日図書館に通って課題に取り組んでいました。そんな時、課題図書『無縁・公界・楽』に意味が分からない言葉が出てきました。

「アジール」、まずは一番頼りになる国語辞典と私が思っている『日本国語大辞典』で調べてみましたが・・・載っていない。外国語であるならばその言語の辞典を使えばよいのですが、スペルも、どこの言葉かも分からない。そこで図書館職員の方に訊いてみることにしました。

カウンターで事情を説明すると「ちょっと待ってね」と言われたので、私は「一応百科事典でも調べてみるか」と思い百科事典をめくってみましたが、またも空振り。約5分後半分あきらめてカウンターを訪ねると先ほどの職員が、赤い表紙の独和辞典をずっと差し出してくれました。開かれたページを見ると「Asyl」の文字が！！こうして私は「アジール」のスペルと意味を知ることができました。

その後、場所は違えども私も図書館で働くことになり、あの職員がどうやって「アジール」という言葉を調べたのか訊いておけば良かったと後悔しています。元々知っていたのか、「アジール」で載っている辞書があったのか、「アジール」からスペルを予想したのか、何らかの方法でスペルを調べてから独和辞典をひいてみたのか。大学を卒業した今となっては、想像するしかありません。

皆さんは「知りたいことがあるが、どうやって調べたら良いのか分からない」「見たい本がどこにあるか分からない」「オンラインデータベースの使い方が分からない」と思ったことはありませんか。そんな時は図書館の職員に訊いてみてはいかがでしょうか。

カウンターは高く、職員と利用者の皆さんを隔てているように見えますが、図書館の敷居は決して高くありません。私はまだ頼りないですが、情報検索のプロが皆さんの疑問・質問にあらゆる手を尽くしてお答えします。困った時には、是非図書館を利用してみてください。お待ちしております。

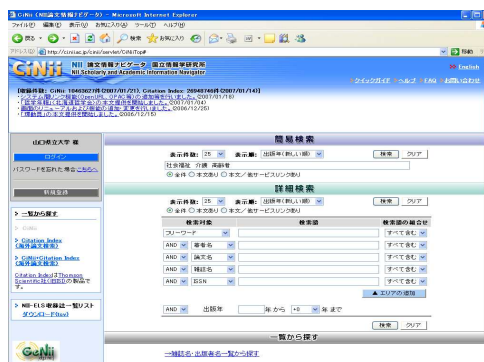
CiNii を使ってみよう

この春、大学での勉強方法にとまどいと緊張でいっぱいの新生の皆さんに耳寄りな情報です。これまでの図書館の使い方は、好きな本を読むために借りるというだけだったと思いますが、大学図書館の使い方は奥がずっとずっと深いのです。これから徐々に慣れていってもらおうとして、まず一番に覚えておかなければならないのは「図書館にある資料(図書・雑誌など)をどのように探すのか?」です。キャンパス内のPCから本学HP、更に附属図書館のページを開き、「OPACによる蔵書検索(以下、OPAC)」をクリックしてください。本学所蔵の図書や雑誌が簡単に検索できます。わからないことがあればカウンターの職員までお気軽にどうぞ。

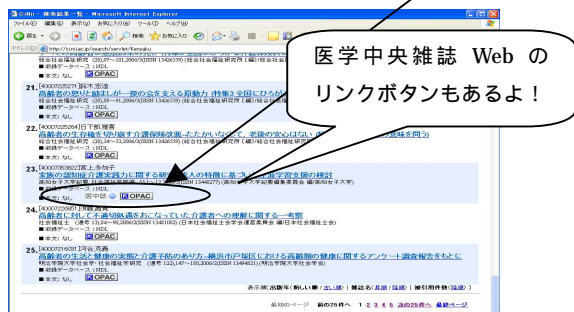
さて、新入生だけでなく、これから卒業論文に向けて論文収集が必要になる学生の皆さんには、こんなお知らせがあります。もうご存知かもしれませんが、国立情報学研究所 CiNii(NII 論文情報ナビゲータ以下、CiNii)の検索結果に OPAC がリンクしています。目指す論文の掲載雑誌が本学に所蔵されているかどうかすぐにわかる優れものです。また医学中央雑誌 Web ともリンクしており、ますます便利になっています。以下、検索方法をご紹介します。

検索方法(例)

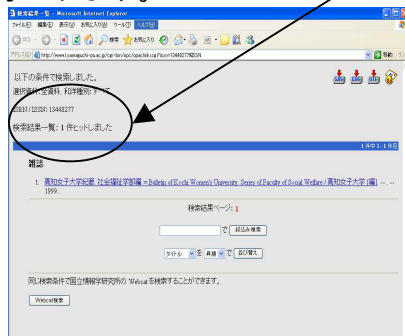
CiNii の検索画面で「社会福祉 介護 高齢者」と入力し、検索します。



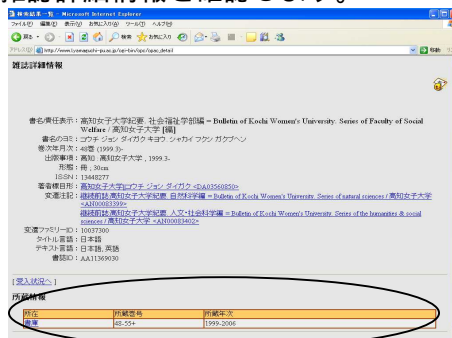
検索結果から探したい論文を収録している雑誌が本学にあるか確認するため、OPAC ボタンをクリックします。



所蔵している場合、「ヒットしました」と表示されます。



雑誌詳細情報を確認します。



ここで注意すること!

- ・探したい論文の収録巻号が、購入中止や紛失などの理由によりないことがありますので、必ず所蔵情報を確認してください。
- ・ISSNをもたない雑誌については、本学で所蔵していてもヒットしません。

その場合は改めて OPAC 画面で雑誌名などから検索してください。

いかがでしたか? データベースを上手に使いこなして、日々の勉強に役立ててください!
(窪田)

編集後記

館報第4号をお届けします。本号でやっと季刊の体裁が整いました。

年度当初ですので、新入生へのメッセージを託した記事も載せています。

新たな学生生活にご活用ください。(町田)

編集・発行/山口県立大学附属図書館
〒753-8502 山口市桜島3-2-1
TEL.(083)928-0522 FAX.(083)928-0279
E-mail.lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp